

行政視察報告書

経済地域委員会 行政視察		令和元年7月24日（水）～7月26日（金）
視察先 及び 調査事項	大分市	大分駅周辺総合整備と中心市街地活性化の取組みについて
	柳川市	西鉄柳川駅周辺整備と中心市街地のまちづくりについて
	富士通(株) 九州支社	ICTを活用した鳥獣被害対策について

本市は、先の6月、JR東日本と松本駅の再開発計画の連携協定を締結した。これは、JR東日本が地方中核都市の活性化策として新潟駅や青森駅と共に松本駅を対象とした「生活サービス事業成長ビジョン（NEXT10）」に応じたもので、本市の中核中核都市としての機能強化、市街地活性化、コンパクトで魅力あるまちづくり、人口の拡大、地域経済の活性化などにつながる。駅ビルは築41年が経っており、駅ビルや駅前周辺の開発は、市や山岳観光地の玄関口、松本市の顔としての役割、市全体の街づくりに寄与するものとしなければならず、市民の関心も高いものである。

今回の大分、福岡での視察は、駅前開発と市街地活性化策の取り組み、もう一点のテーマ、鳥獣害対策について視察研究するもので、今後の松本駅、松本の街づくりに参考にしたいという思いで参加した。

①大分駅周辺総合整備と中心市街地活性化の取組みについて

大分へは「JR九州 特急ソニック号」を利用した。列車は、青い外観、レトロな雰囲気とオリジナルなデザインが特長で人気が高いと聞く。俳優、石丸謙二郎による「大分市観光ナレーション」が車内に流れ、情緒ある旅を演出していた。

到着してすぐ、駅のレトロな雰囲気とクラシカルな木の香漂う駅ビルが印象的だ。駅を出てすぐのところにあるタクシー乗り場では、女性のポーターさんが、到着したばかりの客にキビキビと案内している。我々の荷物も、手早くタクシーのトランクに入れてくださり、笑顔で見送ってくださった。聞くと、このポーターさんは、複数のタクシー会社が経費を出し合っているとのこと。大変気持ちのよい接待（サービス）で、松本駅にほしいサービスと感じた。

JR大分駅は、当初南北に分断されていたが、線路の高架化など「100年に一度の大事業」と言われた「大分駅周辺総合整備事業」を経て、南北が道路でつながり、ショッピングセンターとホテルが入る新駅ビルが2015年に完成。駅前には100m幅の公園道路と直

結し、公共ホールや県立美術館へのアクセスがわかりやすい。路線バスやタクシー、駐車場、駐輪場、レンタサイクルが整備され、電線も地中化されており、駅前の風景はひろびろ、たいへんすっきりしている。

駅前開発が完成してから、マンションや商業施設も建築され、人口も増えた。保育園や幼稚園もあることから、ファミリー層が移り住んでいるという。駅前を中心としたコンパクトシティといった様子。また、駅前の公園は、防災拠点となっており、ヘリコプターの発着場、マンホールトイレが整備されている。市民にも開放され、イベントなどもよくおこなわれている。

空き店舗率、歩行者通行量、バス利用者数、文化施設利用者数などについて、数値目標と達成率も示されており、PDCAが機能していると感じた。

10月のラグビーワールドカップの開催地であることから、受け入れを前に街は大いに盛り上がっていた。

街の中心地にある、黒い瓦でしつらえた市役所庁舎から徒歩数分のところにある「府内城跡」を訪ねた。国宝松本城とは異なり、石垣で囲まれた中には、城の形跡はまったく存在せず、あったのは城の形を真似て組み立てられた、よく建築現場にあるようなパイプ「足場」の構造物のみ。聞くと、夜にはLEDが光り、城の形が浮かび出るといふ。「お城」に関しては、お城そのものが残っている松本城のありがたさを感じた。

②西鉄柳川駅周辺整備と中心市街地のまちづくりについて

二日目、大分からJR九州 ゆふ号で、著名な温泉地、湯布院などを経て福岡へ。有明海に面した「堀割」や「水路」が街中をめぐっている水の都、柳川市を訪れた。

市役所の掲示板で見つけた情報では、映画「柳川堀割物語」は柳川市で制作された。この映画は、あの高畑勲氏と宮崎駿氏らが制作したもので、水路再生の中心人物、柳川市職員を主題にしたドキュメンタリー。この映画によって、「堀割」を埋めずに、大切にしよう、きれいに再生し、保存しようという市民運動が生まれ、今でも地域の小学生などがお掃除などを行っているそうだ。

さて柳川は有明海が近いことから、ムツゴロウや、うなぎ、ドジョウを食するグルメな街である。水路～堀割沿いには、柳の木が連なり、渋い木造建築の飲食店が並び、良い匂いを発している。食通も満足する風情のある街並みが特徴である。

柳川駅の駅舎は、黒い外観と、夜の照明が美しいモダンなデザインだ。数年かけて有識者、専門家が「柳川らしい」デザインを検討し、練り上げた。「未来図シンポジウム」を開催し、市民とのモノづくりワークショップもひんぱんに行った。駅前の活用方法について、市民が会議に参加し、意見を述べる機会も作っている。駅前ひろばは、市民にスペースを貸し出せるようになっていて、イベントの際に利用するための、電源や水道も完備されていた。

「いつかイタリアのベネチアのように、水路にゴンドラを浮かべたい」といふ、市職

員の夢も語られた。

柳川市庁舎を訪れた日は、夏の日差しが厳しい猛暑日。「立花宗茂を大河ドラマに」と書いてある速乾性ポロシャツを着ている職員が多かった。市の PR とクールビズを兼ねた猛暑仕様である。松本でも、国宝松本城や、草間彌生のアートをモチーフにした速乾ポロシャツを採用してはどうか。

新松本駅のデザイン、駅前（お城口、アルプス口）とのつながり、市民と観光で訪れる方たちとの交流の場、松本らしさ、次世代の松本の顔となる駅について、結論ありきではなく、焦らず、ワークショップなどをしながら、市民や議会を巻き込んで検討していきたい。

帰り際、タクシーで前を通った柳川高校は、テニス部や野球部の強豪校で、元プロテニスプレイヤーの松岡修三さんの出身校だ。著名人の出身地や在籍校が、町のイメージをつくる一面もあろう。

③ ICT を活用した鳥獣被害対策について

3 日目。福岡中心のオフィス街にある富士通九州支社。日本の総合エレクトロニクスメーカー、総合 IT ベンダーの最先端である富士通が、JA や鳥獣害対策のための狩猟者など、農の現場にいる方の要望、意見を聞きながら、ICT 技術を活用する姿を学んだ。松本では、鹿、猪、ハクビシンなどの獣害があるが、侵入防止柵の補助以外の対策は取れていない。夜間に現れる獣の姿の確認や撮影ができれば、罠の位置や追い払いに役立つだろう。がしかし、最終的には、山に入って罠を仕掛けたり、罠にかかった動物を捕りに出かけるのは、捕獲技術のある「人間」の存在が不可欠だ。ICT を活用するにも、まず人がいなければならないと感じた。

出没地点のマッピングについては、豚コレラ対策にも使えるのではないかと考えた。

<まとめ>

今回の視察先 3 カ所のうち 2 カ所が、J リーグタウン。大分市が J1 大分トリニータ、福岡が J2 アビスパ福岡である。ホームスタジアムと駅または空港からのアクセスが良いことが共通項だ。福岡は、野球やコンサートが開催される福岡ヤフオクドームへも空港から地下鉄で 20 分ほど。

我が J1 松本山雅ホームのサンプロアルウィンへも、対戦チームサポーターが全国から飛行機等で試合を見にやってくる。サンアルへは、信州まつもと空港から徒歩圏内であるが、試合のある日はシャトルタクシーなどがあればよいのではないか。

試合後は、市街地へ移動し、飲食したり宿泊するだろう。日程によっては、前日に松本入りし、空港からエアポートシャトル等で中心地のホテルで前泊する方も。空港⇒サンアル、空港⇒市内へのアクセスと利便性を向上したい。特に、空港⇒市内はエアポートシャトルで時間が 35 分以上かかる。交通費もそこそこ高く感じる。エアポートシャトル

のバスは古い型式のバスで、荷物用のトランクがなく、スーツケースなどを狭い車内に持ちこまなくてはならない。松本の第一印象を左右するエアポートシャトルの快適性利便性を向上する努力が必要だ。

令和元年8月30日

松本市議会議長 村上幸雄様

委員 神津 ゆかり